

長谷沼家資料の町指定重要文化財への指定について

1. 名称及び員数 長谷沼家資料 一括
2. 種 別 重要文化財(歴史資料)
3. 所有者の氏名又は名称及び住所 個人所有
4. 年 代 19世紀末～20世紀初期(明治時代中期～昭和時代初期)

5. 概 要

「長谷沼家資料」は長谷沼兵作(票策)が19世紀末から20世紀初期(明治時代中期から昭和時代初期)にかけて収集した写真を中心とする資料一括(470点)である。

長谷沼兵作は所有者の曾祖母の弟にあたる人物で、明治6年(1873)に生まれる。渡部鼎が明治23年(1889)に若松で会陽医院を開設すると、書生として住み込んで医学や英語を学び、やがて書生頭となり、後輩の指導にあたった。その中には、左手を手術した会陽医院に書生として入門し、医学の道を志した野口清作(のちの英世)がいる。明治41年(1908)、鼎が東京に移住すると、兵作もともに上京し、書生を一生の仕事にしたという。昭和7年(1932)、59歳で死去した。

資料は、兵作の幅広い交友関係を示す友人・知人の人物写真や集合写真が最も多く、会陽医院時代の清作が写っているものもある。また、七日町や東山温泉、栄螺堂など明治時代中期の現会津若松市の風景や建物の写真も多く残されている。なかでも、阿弥陀寺御三階の最も古いとされる写真や会陽医院の建物を写した現存唯一の写真などは非常に貴重なものである。そのほかに、福島市の街並みを写したのものや、購入したと思われる明治維新で活躍した人物と日清戦争の写真なども見られる。

これらの資料は、19世紀末から20世紀初期にかけての現会津若松市や現福島市などの街の状況や当時の人々の風俗などを知ることができる非常に貴重な資料であり、町指定重要文化財(歴史資料)にふさわしいものと考えられる。

6. 保 存 状 況

長谷沼家資料は平成16年度に町教育委員会で整理作業を行い、あわせてデジタル化し保存、画像データについては所有者と町教育委員会とで共有している。



会陽医院



阿弥陀寺御三階



会陽医院薬局内での野口清作(英世) 右端



栄螺堂



七日町